

DIGITABLE 第 33 回勉強会レポート

2010年3月20日 於：江東区亀戸文化センター（第二研修室）



(レポート撮影：鈴木利男 会員)

(初級) 初級講座⑤

Photoshop Elements 講座 3 回目

(本科) Photoshop 研究講座「マイブック写真集」
デジタルフォト基礎講座＜実践編＞10
「カラーマネージメントと調整の再確認」
第三回定例総会

井村奈加子 講師

平野 正志 講師

平野 正志 講師

高木 大輔 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

※今月は都合により本科の二講座のみのレポートとなります、ご了承ください。

(本科) Photoshop 研究講座「マイブック写真集」

平野 正志 講師

アスカネットに「マイブック」というサイトがある。マイブックエディターというソフトをダウンロードすると、簡単な編集でページが作れて、写真集を印刷してくれるというもの。一冊からでも作れるというのが売りで、編集後データを送付すればよい。本のタイプにも何種類もあり、それぞれに値段が違う。テンプレートからページ数なども選択できる。

フォトショップのプラグインという別ソフトもあり、フォトショップの自動処理にフォトブックの項目が加わる。それぞれ必要なページをダブルクリックするとフォトショップに必要なページが表示され、後は写真の貼りつけ文字の打ち込みなど通常の作業と同じ作業が行える。使い慣れたフォトショップ上で自由にレイアウトなどを行えるのが便利で、レイヤー効果なども問題なく利用できる。ただし、最終データはすべて統合し、JPEG にしておくのが無難だ。

フォトショップのプラグインのファイル形式 (ABP) と、元のマイブックエディターのファイル形式は異なり、互換性はないようでプラグインで作ったものはマイブックエディターでは開けなかつたので注意が必要。

今回の本は一冊数千円にはなってしまうのでやや高価には感じるが、印刷も十分綺麗に仕上がってきた印象がある。プリント写真の整理に困る経験からすると便利な商品といえるだろう。

デジタル写真を自家処理している方にも、本形式での保存や配布は便利だろうし、レイアウトデータは JPEG で保存しておけばビューアなどでの表示にも利用できそうだ。



平野講師による授業風景



フォトショップのプラグインでの制作画面



完成したマイブック

○カラーマネジメント入門

デジタル写真で困るのが、パソコンの画面表示とプリンターや印刷時の色が合わないといった問題だ。元々光の三原色である赤 (R)、緑 (G)、青 (B) を組み合わせせて色を再現しているモニタと、シアン (C)、マゼンタ (M)、イエロー (Y)、ブラック (K = クロの意) のインクを掛け合わせて再現する印刷物は色が違うのが当たり前で、モニタと印刷物では原理としている色空間が異なり、そのため表現できる色域も違っている。

カラーマネジメントとは、モニタやプリンター、印刷機など異なるデバイス (出力、機器) 間での色合わせの技術で、基本的なしくみは画像ファイル自体にカラー変換タグ (属性) 情報をつけて保存し、そのタグを読みあうことで同じ色で表示したり出力したりするということだ。そのタグを「プロファイル」と呼ぶ。

Photoshop や画像ソフト、デザインソフトでのカラーマネジメントとは、色空間のプロファイルをきちんと運用していれば問題ない。

一般的な sRGB に加え、一部で Adobe RGB も浸透しつつあるが、ソフト上で、カラーマネジメントの設定が間違っていると、正しい色が再現されないばかりか、本来の意図より見た目の色が悪くなってしまうこともある。

○色補正の基本的手順

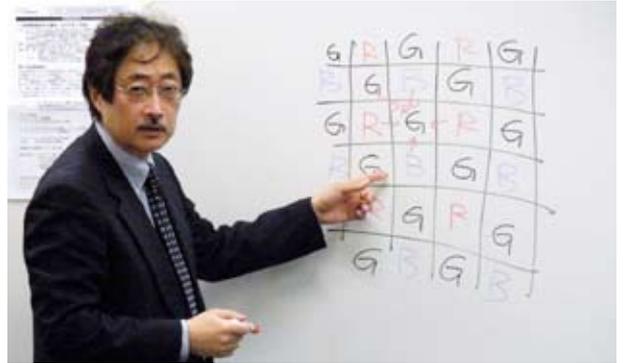
画像の劣化を最小限度にして色補正を行うには、補正の順序を正しく踏むことが重要だ。

1. ヒストグラムで画像の状態を把握
2. トーンカーブで各チャンネルごとに調整
通常は、G の数値に他の 2 値を揃える。全体的なコントラストや濃度調整を行なう前に、このグレーバランス調整を行なうのがとして正解だ
3. トーンカーブのコンポジットチャンネルで調整
で全体的なコントラストや明るさを揃える (ここまでで階調を補正する作業が終了)
4. [色相・彩度] で色ごとに調整
5. [色相・彩度] で全体の彩度を調整
全体の彩度を上げる (または下げる) ことにより、RGB チャンネル間のバランスが変化しピクセルの間が埋まるため、トーンジャンプが若干だが解消される効果も期待できる
6. ノイズを加える
これも調整によって生じた画像の荒れを改善し、写真としての完成度が高まる

○自動補正機能の利用法

Photoshop Elements ではトーンカーブ等がないので使いづらい面も多いが、自動補正機能を上手に使うのも一つの方法だ。裏ワザの一つとして、最初に [自動カラー補正] を適用し、次に、[シャドウ・ハイライト] を適用しダイナミックレンジを調整し、最後に [色相・彩度] で色を整えるとよい。

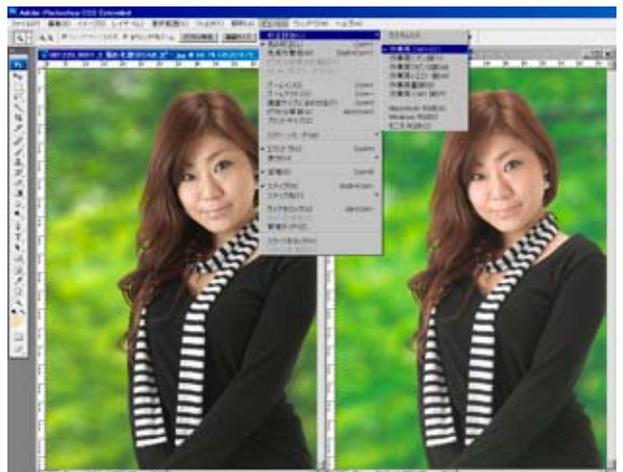
(コメントや意見の追加をお願いします)



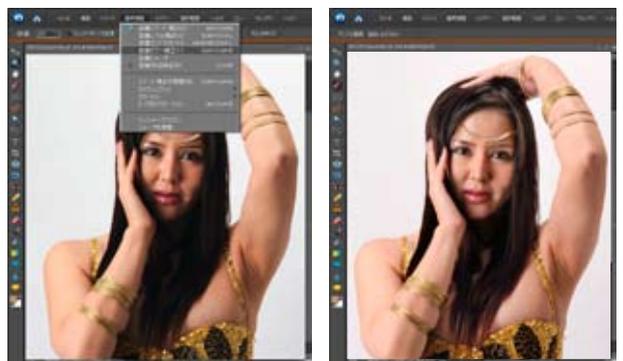
デジタル画像の説明を行う高木大輔講師



設定が間違っていると正しい色が再現されない



サブウィンドウと校正設定の利用
Photoshop ではサブウィンドウを開くことができるが、「ビュー」のメニューから RGB や CMYK のそれぞれのモードをシミュレーションする設定が可能



Photoshop Elements での「自動カラー補正」の効果
色かぶりしていたりダイナミックレンジが狭い写真では [自動カラー補正] を使用すると効果的だ (*もちろん Photoshop CS シリーズでも可能)